

■M J P 7周年記念乱交パーティー

7周年を記念してM J P慰安会が開かれた！

スズカゼ・リン少佐と、おやっさんこと西園寺レイカ整備士長が生徒たちをもてなしてくれるぞ！ パニースーツで！

「なんでこんな服を……！」

「いいじゃな〜い♪ せっかくだから楽しみましょう♪」

パニーガール化することにも接待することも抵抗感を示しているスズカゼ・リンを、レイカが笑顔で宥める。彼女の方はノリノリ、かと思いきや、スズカゼにそっと落ち着いたトーンで耳打ち。

「上っ面だけいい顔して、とっとと終わらせればいいのよ……少しはコミュカも養いなさい♪」

レイカとしても、まともに相手する気などないのだ。
適当にお酌して適当にうわべだけ接待する。つもり……だったが。

「はいージュースだけどカンパ〜い♪ ほら、そのキミも〜♪」

【あざーっす】

もみっ♥ ぎゅむうううっ♥

「んふううっ♥♥ こっ……こらあ♥♥ どこ、触ってんのよお〜っ♥♥」

(な、なにこの感覚♥ いくら酔ってるからって♥ 有り得ない……♥♥)

自分のペースで楽しもうとしたレイカだが、生徒の無礼講セクハラ乳揉みで一瞬にして発情。
アルコールの影響だけとは思えない異常興奮に、今までの余裕がすっかり消え去る。
特にお触りされていないスズカゼの方も顔が上気しており、身を抱いて悶えている。

「あなたたち……いったい……何を、したの……っ♥♥」

【いやー、専用特製アロマ、聞きました？ 少しだけ『生存本能』を活性化させただけですってー】

「やってくれるじゃない……♥ リンリン……！」

「その呼び方、やめて……でも、仕方ないわね……ええ♥ 生徒だからって……手は抜かないわ♥
本気でイクわよ……！」

無礼講接待どころか、違法薬物の類手を出していた生徒たち。

そうと分かればと、レイカの方も不敵な笑みを浮かべ、スズカゼも毅然として生徒たちを睨み付ける。

レイカはもちろん、スズカゼも貞操観念とは裏腹に、性経験は非常に豊富。

飲み接待どころか、本気で性的に食ってやろうと嗜虐心を露わにするが、生徒たちはすかさず『アロマ』を強める。

【じゃこっちもホンキで♪】

ヴウウウツ♥

「んはああっ♥♥ なっ、何よっ、これええ♥♥ 子宮に……響いてくるうううっ♥♥」

アロマどころか超音波めいた何かを使い、二人の子宮が直接的に狙われた。

子宮が振動させられるチート技術で強制的に発情を深められ、レイカさえ堪らず悶絶。かつてパイロット訓練を受けていたスズカゼも唇を噛み、腹を押さえて動けなくなる。

「あなたたちっ……♥♥ こ、これ、は……っ♥♥」

【疼くでしょ？ 素直に宣言してくださいよ♪ 発情した牝ウサギですって♪】

ばちいんっ♥

「あひっ♥♥ つ……あ、あたし、たちは♥♥」

へこへこっ♥ ぶるんっ♥ ばるんっ♥ がくがくがくがくうっ♥

「チームラビッツ代表の♥♥ 淫乱♥♥発情♥♥牝ウサギですうっ♥♥」

レイカが爆乳爆尻を振りたいく、スズカゼが淫靡極まりない貌となって雄に媚びる。

完全に発情した牝畜となった二匹は、生徒たちの気が済むまで延々と肉の宴に突き合わされるのだった……

「おッ………♥♥♥ イッ♥♥♥ イッ♥♥♥ お……ッ♥♥♥ つぐふううううっ♥♥♥

イッ♥♥ イカされ……っ♥♥ おッ♥♥♥ おッ♥♥♥ おッ♥♥♥ おッ♥♥♥

こ……♥♥♥ これ以上……は……っ♥♥♥ 激しすぎ……んひいいっ♥♥

これっ♥♥♥ すご……ッ♥♥♥ つぐ♥♥♥ ふっ♥♥♥ ふっ♥♥♥ ほおッ♥♥♥

本日は♥♥♥ 生意気牝ウサギの胸肉・尻肉の踊り食い♥♥♥

フルコースで♥♥♥ ご堪能くださいませえっ♥♥♥

あへえっっ♥♥♥ もうだめええっ♥♥♥ ダメえ♥♥♥

気持ち良すぎて腰振ってるの見ないでええっ♥♥♥ イカされちゃうううっ♥♥♥

おちんぼ種漬けにっ負けっあっあっあっ♥♥♥ このちんぼ気持ち良すぎひいっ♥♥♥

あっへええええっ♥♥♥ ドスケベまんこアへ晒すうううっ♥♥♥」

「っほ♥♥ っお♥♥ あへっ♥♥ ま、負けないい♥♥♥ おほおんっ♥♥ んほおっ♥♥

まっ♥♥♥ 負けるっ♥♥♥ このままだと確実に負けるっ♥♥♥

何でも言うこと聞くからあ♥♥♥ お願いっ中はっ♥♥♥

んぐほおおおおっ♥♥♥ 負け確おまんこっ♥♥♥ もういじめないでえええっ♥♥♥

ドスケベダンスとまらないいいっ♥♥♥ イグうううううううっ♥♥♥

中出しっ♥♥♥ 気持ち良すぎるううっ♥♥♥

おちんぼ様にイカされるううううっ♥♥♥」

◆おやっさん痴漢

豪放磊落、色んな意味であけっぴろげなレイカだが、あんな姿なので、街を歩けば男とすれ違うたびに痴漢に遭うなど日常茶飯事である！

(今日は何飲もっかな〜♪)

むにゅんっ♥

「っ……♥♥」

(ま、また痴漢……♥ この揉み方、またあいつね……いったい何度揉むつもりよ……っ♥♥)

上機嫌で酒を探していたところ、痴漢師に一瞬で胸を揉まれてしまう。

更に次は、混雑の中で後輩たちと再会した時……

【おやっさん久しぶりっすー♪】

「あら、久しぶり……」

【いやホント！ こんなところで会えるなんて！】

がしっ♥ むんず♥ もみもみもみもみいっ♥

「ほっ♥♥ ほんと……ねえっ♥♥」

(この子たち……なの……？♥♥ い、いくら何でも♥♥ 遠慮なさすぎ、よ……っ♥♥)

後輩整備士と再会して軽度のスキンシップ&混雑に紛れての痴漢。

豊富な乳尻を揉みしだかれるが、下手には逆らえない。

何せ胸を剥き出しにしているのは自分自身。騒ぎを起こせばMJPのイメージを壊しかねない。

……もっとも、その露出癖とも言える着方も、過去に受けた陵辱調教の影響なのだが。

(こんなことにも悦んでしまう……自分の身体が恨めしいったら……♥♥)

【おやっさん大丈夫ですか？ 肩貸しますよ】

がしっ♥ ぎゅうううっ♥

「んんひっ♥♥ らい……じょうぶ♥♥ らから……そこ♥♥

そんな、強くしたら……♥♥」

【いいからいいから♪ あ、ついでにいい酒あるんでウチ寄ってってくださいよ！ ね?!】

ぎゅむんっ♥♥ むちっ♥ ぶるんっ♥♥ もみもみもみもみいっ♥♥

「んんっ♥♥ そこ♥♥ ひよこはあ♥♥ らめ……わかっら♥♥ わかっら、からあ♥♥

あ、イク♥♥ イクから……あ……〜〜〜っ♥♥」

こうして適当な理由をつけ、今日もずるずると徹底陵辱を許してしまうのだった……